

※2020.11.中旬時点に作成。

江戸時代にも居た！  
ダイバーシティなお殿様！



コスモタイガー

選定動機：コロナ禍で景気回復はまだ遠そう…。  
そんな時、先人たちならどうやって乗り切ったんだろう。  
(影の声：菅さん大丈夫?)

# 1.景気対策の手法

※ ( ) 内は主な参謀または師

## ①規制緩和

◎徳川宗春(星野織部・河村秀根)

○田沼意次

## ②質素儉約

◎徳川吉宗(大岡忠相・松平乗邑)

○真田幸弘(恩田木工)

○上杉鷹山(細井平洲)

←→  
〈対立〉

斬新なお殿様として尾張(現愛知県西部)の庶民に慕われた徳川宗春公。  
同時代の将軍、吉宗公と対比させながら紹介したいと思います。

## 2.人物紹介

徳川宗春？徳川吉宗？誰それ！という方のために…

### 1) 徳川吉宗（江戸幕府8代将軍）

①元々紀州徳川家の庶子。気楽に勉学に励んでいた。（2代藩主光貞の4男）



越前国葛野藩主（分家）になる。

蛇足：NHK大河「8代将軍で西田敏行さん  
「暴れん坊将軍」で松平健さんが演じました。

②兄たちの死により、突如後継者に…。



紀州藩第5代藩主に就任。

③江戸幕府では、はやり病（今でいうコロナ）で7代藩主家継が8歳で早世。直系血筋が絶えてしまう。



後継者として、尾張（6代藩主継友）と紀州（吉宗）で争う。



結果、紀州の吉宗が将軍職を継ぐことに。



8代将軍徳川吉宗の誕生。

## 2)徳川宗春（尾張7代藩主）

- ①元々庶子だったので気楽に勉学に励んでいた。  
（3代藩主綱誠の20男）



陸奥梁川藩へ養子に出される。

蛇足：NHK大河「8代将軍吉宗」では中井貴一さん  
「暴れん坊将軍」では悪役（中尾彬さん）にされちゃってます（怒）。

※梁川藩主として。

飢饉にもかかわらず、御蔵米（藩士に支払う俸給用の米）を躊躇せず放出。  
その結果、1人の餓死者も出さずに乗り切る。



幕府に認められる。（リーダーとしての実績あり）

- ②継友（6代藩主）をはじめとする兄たちの死により、突如後継者は自分だけに。



尾張藩7代藩主に就任。

こうして、江戸に吉宗、尾張に宗春、  
という状況が出来上がりました。

# ★徳川吉宗の政策

- ・ 質素儉約・大胆なリストラ
- ・ 新田の開発
- ・ 目安箱（アンケート投書箱みたいなもの）の設置
- ・ 公事方御定書（今でいう刑法）を制定

※日本で初めて「こういう所業にはこういう刑罰を科す」という統一ルールを作成・明文化した、と言われる。

江戸幕府中興の祖

享保の改革

と云われ、高い評価もある。

（独り言）学校では、この部分だけ教えるからね～。

死人に口なし！歴史は勝った側（為政者）によって伝えられる！  
そして為政者を否定するような内容は、授業では教えられません。

# が！その裏側は??

・年貢の引上げ（4公6民 → 5公5民）

※4割税金 → 5割税金 の意味

↓  
農民の生活苦を増長

↓  
百姓一揆の頻発を招く。

・質素儉約により…

景気の低迷

↓  
庶民の生活はさらに苦しくなり、文化も停滞。

まさに今の状態

◎「幕府」の蔵は持ち直した(財政再建にはなった)ものの、「国」としてどうだったのか？

◎享保の改革は、部分的に成果があったことは間違いないが、Totalとして『失敗』という評価も。

# ★徳川宗春の政策

●封建社会・質素儉約の流れの中、「これではいけない」と考え、

自由経済や庶民の幸福を考えた政策で立ち向かう決意

●著書：**温知政要**

を自ら出版、藩士に配布。(詳しくはあとで♥)

## ★自由経済

規制緩和…芝居小屋・遊郭等の奨励



江戸・京都での自粛と相反し、名古屋へ人・モノが集中！



「名古屋の繁栄に興（京）が冷めた」と比喻されるほど、大幅な人口増。



京都・金沢を抜き、江戸・大坂（大阪）に次ぐ大都市へと変貌する。

→現在の名古屋の基礎を作った。

税は据え置き ⇒ 4公6民 を維持

ある日、宗春が家臣に問いました。

「お金は使ったら無くなるのか？」

「当然、使ったら無くなります」

「違う。お金は消えてなくなりはない、天下を回ってるだけだ。」

さらに付け加えます。

「我が飲み屋に行くとする。飲み屋の主人はその金で着物を買うかもしれん。着物屋はその金で奥方に鼈甲を買うであろう。鼈甲屋は傘を買うかもしれん。傘屋が子供に小遣いを渡せば、子供は飴玉を買いに行くであろう。

お金は天下を回ってこそ意味があるのだ。」

江戸封建社会の中、消費流通経済を思い描いたとされる。



■著書「温知政要」の中で、自らの政治理念を表明 → 藩士に配布する。

●第3条：冤罪は国の恥。紛らわしき案件は何度でも吟味いたすべし。 → 再審制度

●第6条：松の木には松の用あり。檜には檜の用あり。 → 適材適所

●第7条：総じて人には好き嫌いがあり、それぞれ趣向があり、それはお互い尊重しなければならない。  
自分が好きなものを他人にも好ませたり、嫌いなものを他人にも嫌わせることはあってはならない。  
→ 個性の尊重、思想の自由

●第9条：儉約はとても大切であるが、やたらに自粛するばかりでは慈悲の心が薄くなり、  
人々は悲しむことになる。  
また、規制ばかりでは粗末な材料で粗悪品を作ることになる。 → 消費・流通の重要性  
Totalではかえって余計な出費となる。

●第17条：たとえ千金のべたる物にても、人間一人の命には代へがたし。 → 人命尊重、  
基本的人権の尊重

※実際に宗春は在任中、1人も死刑を執行していない。

★一番のポイント！：第7条・第17条 → 現在のダイバーシティに繋がりますね♥

その後…

●宗春の評判は京の公家にも伝わり、「温知政要補翼」が京の儒学者、中村三近子により出版される。

吉宗 ⇒ 宗春を詰問する。(3ヶ条)

①江戸での遊興はけしからん

②子供の節句は地味に質素にと言ってるのに、町人まで招き入れてドンチャン騒ぎしやがって！

③儉約令を守っていない。

宗春 ⇒ 反論する。(3ヶ条 + 1)

①国元で遊び、江戸で大人しくしてればいいのか？そんな裏表ある行動こそ非難されるべき。

②節句は神君家康公から続く慣例であり、それを省略・簡素化するなど家康公への侮辱である。

③4公6民を維持してみな平和に暮らしている。これこそ真の儉約である。増税したのは幕府の方だ。

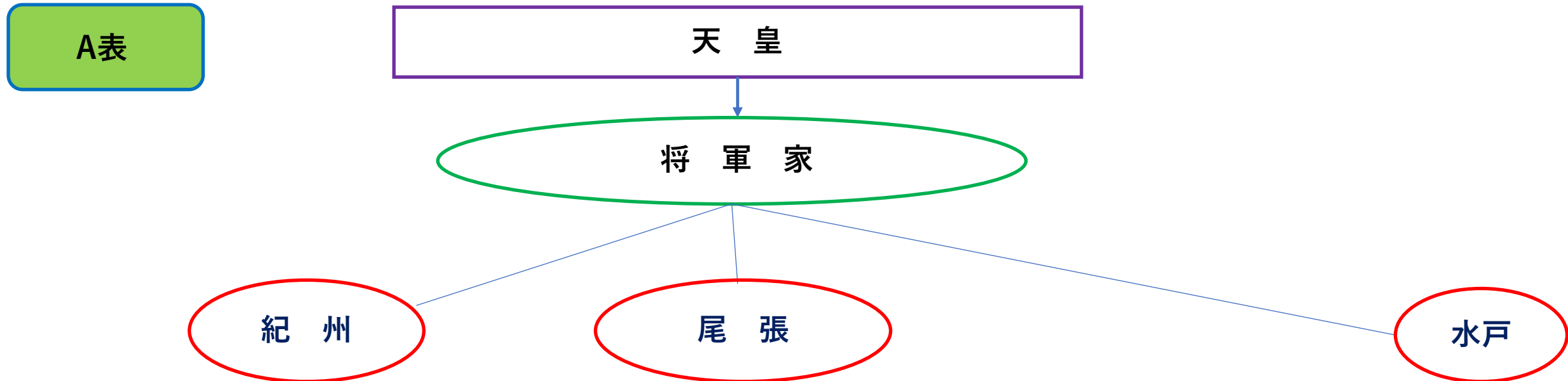
④世の安寧の為、表向き臣下の礼を取ってはいるが、本来将軍家と尾張家は同格である。(後述)  
(あんたの家来じゃないよ、上から目線であれこれ言われる筋合いない)

# そもそも御三家とは…？

★徳川家康が、将軍家に何かあった場合・跡継ぎがない場合などに、すぐに代行できる家系として「御三家」を制定。

●一般的には、尾張徳川家・紀州徳川家・水戸徳川家を指し、その御三家の上位に将軍家がある、とされているが…。(学校でもそうやって教わりますね♪)

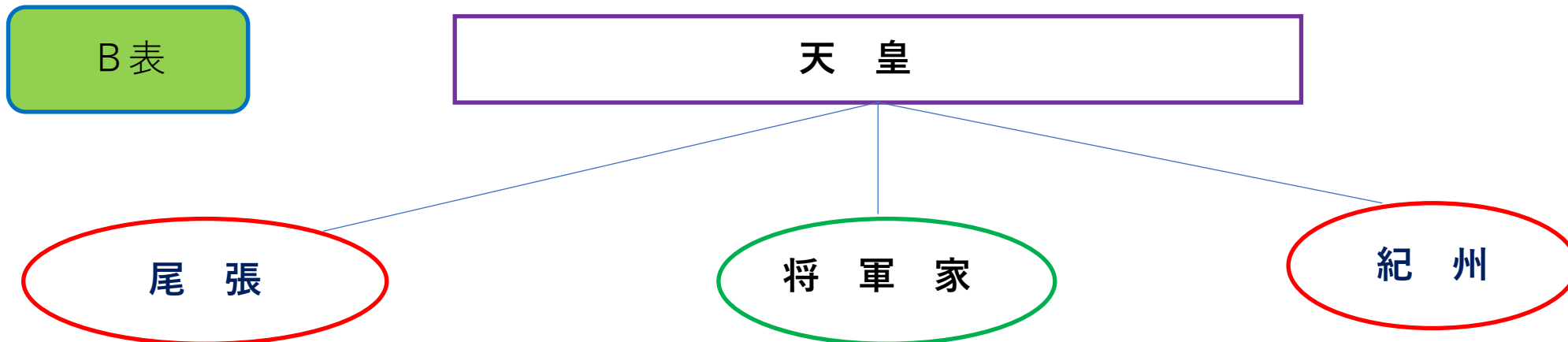
3代将軍家光辺りから、この考え方(A表)が広がった(あえて広げた?)とも。



- ・家光は、武家諸法度を制定し、参勤交代を制度化した。  
⇒それらを定着させるため、将軍家を一段高くして権威付する魂胆もあったかと。
- ・御三家と称しつつも、水戸家は慣例上1ランク下、とされていた。  
(イメージとして、①尾張→②紀州→→→③水戸の感じ)  
⇒石高を比較すれば明らか。

尾張：62万石　紀州：56万石　水戸：35万石

●江戸初期には、御三家（※つまり、家康が制定した御三家）とは、将軍家・尾張徳川家・紀州徳川家、を指していた。（B表）



- ・尾張家は、家康の9男、義直公から続く家柄。  
尾張家初代義直公は、当然、父家康の薫陶を受けており、尾張家も代々この考え方（B表）を踏襲していたため、「**将軍家と尾張家は同格**」との思いが強かった。
- ・水戸家は本来の御三家ではないからこそ、格下扱い、との考え。



★ゆえに…

神君家康公を敬う思いは共通であるが…。

8代将軍吉宗は、尾張家（宗春）を家臣と思っているが、宗春は、「将軍家（吉宗）と同格」と思っていた可能性も高い。

星野織部・河村秀根などの新しい家臣を登用。  
・旧家臣の中には面白くない者も…。



一部の家臣が吉宗と内通し、失脚となる。

今でいう、首相と県知事（又は政令指定都市の市長）の対立、のため、首相が勝ったという構図  
立場が逆ならどうなっていたか？

復習：歴史は勝った側によって語られる。

⇒ 吉宗が名君（善）、宗春が放蕩者（悪）、という評価はあまりにも一方的。

どちらが正しい、ということはなく、  
御三家に対する考え方の違い、政治理念（経済政策）の違いが対立を招いた、  
と思われます。

（※おまけ：河村秀根…現名古屋市長の祖先です）

## ◎気付いたこと（感想）

### ♥片方を聞いて沙汰するな

歴史は勝者だけのものではない。負けた側にも相応の考えがあったはず。むしろ勝敗は運や置かれた状況にも左右されることがあり、勝ったから正しいと簡単には決めつけられない。

### ♥多様な価値観を認めたお殿様

個々の好き嫌いをお互いに押し付けるなというのが温知政要第7条の趣旨。封建制度真ただ中の江戸中期に価値観の多様化を主張したお殿様は凄い！

### ♥命の重要性と人権の尊重を主張するお殿様

増税もせず、冤罪撲滅に心を砕き、皆が幸せになる事を考えたお殿様。これ、江戸中期のお話です。

### ♥率先垂範

宗春に限った話ではありませんが、やり方は皆それぞれ異なりつつも、自らが決めたことは、自ら率先して行っていることは共通している。

ご清聴ありがとうございました。